

特長生かした採用進む

東亜グラウトアイスピグ工法で洗管

特殊アイスピグシャッター(SIS)で管内洗浄を行うアイスピグ管内洗浄工法について、関東の2事業体で採用が続いた。東亜グラウト工業(大岡信三社長)が昨年11月21日に神栖市、12月14日に沼田市で、同工法による洗管を実施、洗浄効果が確認された。神栖市の事例は、関東圏で水道管を対象とした初の採用実績。工法の特長を生かした活用が進んでいる。

神栖市 水道で関東圏初の実績

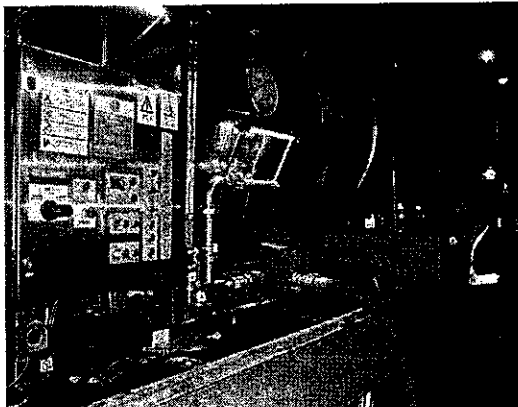
東亜グラウト工業は神栖市内の配水管洗浄業務を受託し、11月21日、国道横断の伏越し部(高低差3.7m)に存在する砂などの堆積物除去を目的にアイスピグ工法で洗管した。対象は昭和40年代後

半布設のダクタイル鉄管(口径350mm)、洗浄距離約150mで、堆積物除去を確認した。関東圏では、これまで下水道管や民間工場の配管における実績を有していたが、水道管で採用さ

れたのは神栖市が初。同市水道課では、対象管路に砂などが堆積しているが、国道下に布設されており、パイプインパイプ工法などで更新するにも費用がかかるため、維持管理に有効な洗管工法を模索していた。その中で、SISを管内に注入することにより、伏越し部を洗管でき、老朽化が進んでいる管路でも安全性が高いアイスピグ工法を採用し、洗浄効果を

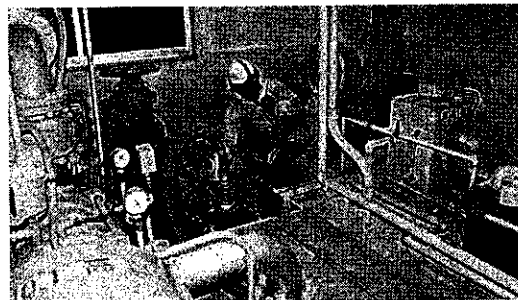
確認することにした。東亜グラウト工業はSISを2・2ト運搬可能なナリパリーユニット3台を現場に派遣し、空気

弁からSISを注入して洗浄を行った。洗浄後には管内カメラで堆積物が除去された状況を視認



神栖市ではユニット3台が出動

し、アイスピグ工法の有効性を確認した。佐々木信課長は「各種洗管工法を比較・検討してきたが、堆積物をSISで洗浄できるアイスピグを今回採用した。これまで有効な手段がなかったが、効果を確認できた。同様箇所での採用も検討したい」と述べた。



送水管にSISを注入(沼田市)

沼田市 短期施工も除去効果

東亜グラウト工業は沼田市発注の高区送水管清掃業務を受託し、12月14日、送水管内の付着物除去を目的にアイスピグ工法で洗管した。対象は昭和59年に布設された送水管(ダクタイル鉄管口径200mm)、清掃延



回収口でマンガンなど除去を視認(同上)

内への付着が進行していた。そこで短時間の施工が可能で、マンガンなどの除去に実績がある洗管工法を模索し、アイスピグ工法を採用した。対象は昭和59年に布設された送水管(ダクタイル鉄管口径200mm)、清掃延

上下水道課水道係の都所英明副主幹は「除去効果を確認したほか、約3時間で全作業を完了できた。業務委託は総延長2700mを3力年で実施する計画だが、費用対効果や管路が施工条件を満たしているか検証し、今後の方針を検討していきたい」と語った。

た。高区地域の給水量は人口が集中したことに伴い増加し、高架水塔容量200立方mを最大限生かしているため運用上の余力がなく、断水は約3時間しかできない状況であった。そこで短時間の施工が可能で、マンガンなどの除去に実績がある洗管工法を模索し、アイスピグ工法を採用した。対象は昭和59年に布設された送水管(ダクタイル鉄管口径200mm)、清掃延